



那須塩原クリーンセンター

那須塩原クリーンセンターの特徴

熱エネルギーの有効利用

ごみの焼却熱を利用して、施設で使う電気を発電。余った電気は電力会社に売却。
※令和元年度の余剰電気売却による収入額は、約3千万円でした。



公害防止

ごみを安定的に燃やすことで、有害な物質の発生を防止。法に基づいて厳しい基準での運転を実施。

ごみのリサイクル

施設内のリサイクルセンターで資源物や不燃ごみ、粗大ごみの破碎・選別・圧縮などを行い、資源として回収。
※令和元年度の資源物売却による収入額は、約5千万円でした。



自然との共生

施設と一体を成す緑地の保全を図り、そこに生きる動植物のさまざまな種の保全を目的として、隣地所有者の協力で20万平方メートルに及び緑地保全協定を締結。



ごみ出しは計画的に
本市では、ごみは収集日当日の午前8時30分(塩原地区は午前8時)までに、決められたごみステーションに出すこととなっています。那須塩原クリーンセンターでは、ごみの焼却によって発生する熱エネルギーを有効活用したり、ごみの選別・リサイクルをしたりしながら、市内で収集したごみを処理しています。一度に多くのごみを出したり、那須塩原クリーンセンターへのごみの

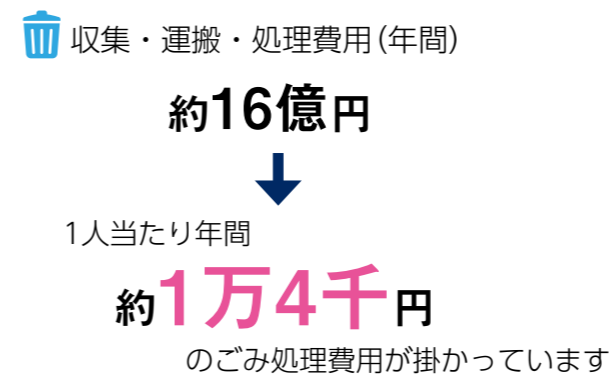
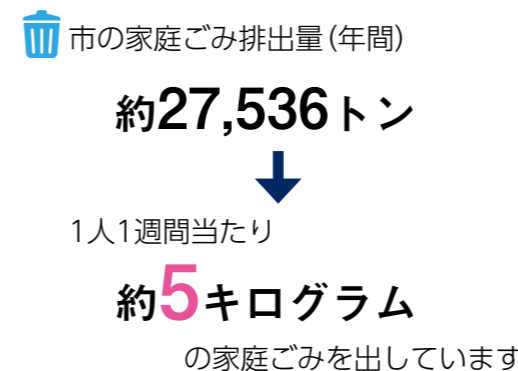
持ち込みが集中したりすると、各地域のごみ収集が遅くなりごみの収集運搬作業に悪影響が出ます。また、年末などの長期連休になるとごみが増え、例年、那須塩原クリーンセンターはごみを持ち込む車両で混雑します。ごみの収集運搬や処理に支障を来さないようにするため、ごみを出すときは、市が配布するごみ出しカレンダーやごみ分別事典(7ページ参照)を参考に、「ごみが多いときは数回に分けてごみを出す」など計画的に行いましょう。

特集 ごみ×くらし

私たちの生活と密接に関わる「ごみ」。最近では、プラスチックごみ削減のためのレジ袋の有料化や、今までの「Reduce(減らす)」「Reuse(再使用する)」「Recycle(再生利用する)」に「Refuse(断る)」を加えた「4R」を推進する自治体が増加するなど、ごみ問題対策への動きが少しずつ始まっています。

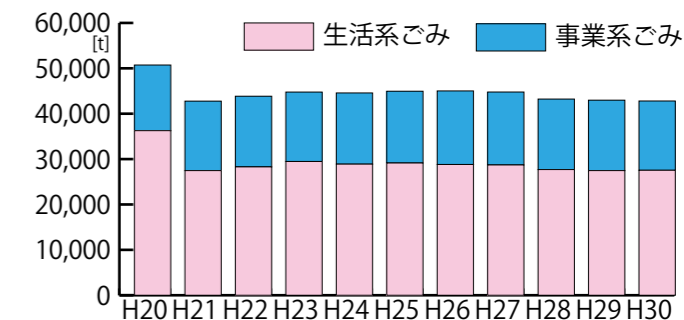
数字で見る！本市のごみ事情

※平成30年度実績。



生活と切り離せない「ごみ」
私たちが日々生活する中でどうしても発生してしまう「ごみ」。ごみを出す私たちがごみ出しのルールを正しく理解していないと、環境汚染や健康被害、ごみを処理するための費用の増加など、さまざまな問題につながります。
市のごみ総排出量は、平成21年度に生活系ごみ(家庭ごみ)の処理が有料化されたことで一時減少しましたが、それ以降、ほぼ横ばいで推移しています。この「ごみ」に私たちはどのように向き合っていけばいいのか、一緒に考えていきましょう。

市のごみ総排出量の推移



※生活系ごみ(家庭ごみ)は家庭から出されるごみや資源物、集団資源回収に出される資源物を合わせたもの。事業系ごみは飲食店などの事業者から出される産業廃棄物以外のごみ。

Topics

有料指定ごみ袋を導入しています

平成21年度、市は「家庭ごみ処理の有料化(有料指定ごみ袋制度)」を導入しました。マイバッグを活用する人や生ごみを家庭で処理する人、分別を徹底している人などごみの減量・資源化に取り組んでいる人には負担を軽く、そうでない人には一定の負担を求めて公平化を図るためのものです。可燃ごみ袋と不燃ごみ袋が有料で、ごみの処理費用の一部になります。

資源物は無料で回収しているため、ごみ袋が有料の可燃ごみや不燃ごみから資源物を正しく分別すると、その分だけ皆さんの負担軽減につながります。



可燃ごみ袋(大)1枚50円で、平均6キログラムのごみが入ると想定すると、その処理費用は1袋あたり195.6円になります(導入時試算)。